

リスク管理

気候変動に伴うリスクを統合リスク管理の枠組みの一つである「重要リスク」として特定のうえ、定性面からも定量面からも、モニタリング態勢を強化しています。

リスク管理全体統括部署が関連部署と連携しながら、気候変動によるリスク・機会の特定・評価、国内外の規制動向や当社の取組状況等のモニタリングを行ない、評価・

検証を実施しています。

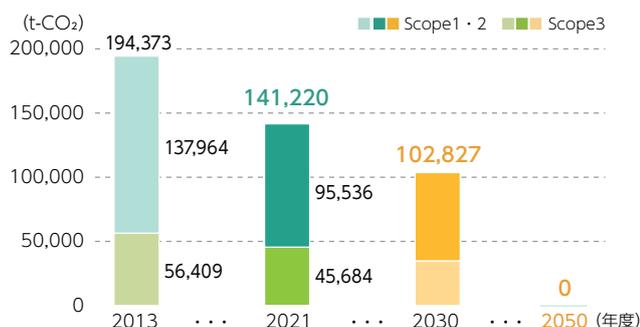
その結果については、経営会議およびその諮問機関であるリスク管理検証委員会に定期的に報告し、予兆の把握や適切な対応に努めています。

リスク管理  P100

指標と目標

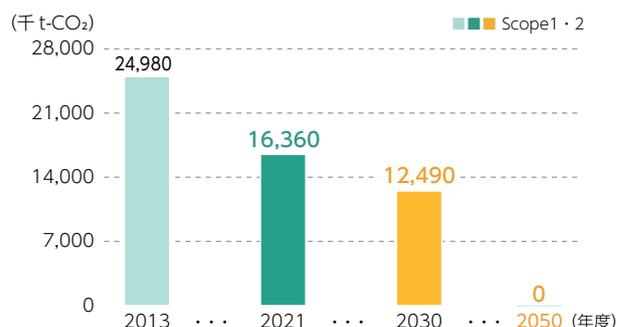
事業者・機関投資家の双方の立場から脱炭素社会の実現に貢献するため、CO₂排出量にかかる削減目標を以下のとおり設定しています。

▶事業者としてのCO₂排出量(いずれも2013年度比)



	2021年度実績	2030年度	2050年度
Scope1・2 (注1)	△31%	△50%	△100% 排出量 ネットゼロを実現
Scope3 (注2)	△19%	△40%	

▶機関投資家としてのCO₂排出量(いずれも2013年度比)



	2021年度実績	2030年度	2050年度
投資先からの排出 (Scope1・2) (注3)	△34%	△50%	△100% 排出量 ネットゼロを実現

(注1) Scope1は、当社での燃料の使用等による直接排出。Scope2は、当社で購入した電気の使用等による間接排出

(注2) Scope3は、サプライチェーンにおける当社以外の間接排出。重要性等に鑑み、6つのカテゴリ(1,3,4,5,6,7)に限定して算出しており、カテゴリ15(投資)は「投資先による排出」として、別途管理

(注3) 対象は、国内上場企業の株式・社債・融資